

河川工作物フォローアップ会議(仮称)について(案)

1 目的

河川工作物ワーキンググループで改良が適当と判断されたダム等については、河川工作物の設置者によって順次改良が進められ、またサケ科魚類の遡上モニタリング等が行われてきたが、今後、遡上モニタリングの評価方法が追加的に検討すべき課題となっている。

改良から数年を経て、順次モニタリングを評価する時期が到来しつつあることから、このモニタリングをフォローアップするため、追加的な技術的助言を頂くため開催するもの。またメーリングリスト上での随時意見交換を行うものとする。

2 名称

「河川工作物フォローアップ会議」

※ 先般の科学委員会において「河川工作物アドバイザー会議」の名称案がだされており、現在調整中。

3 検討事項

- (1) 河川工作物の改良効果のモニタリング結果の評価
- (2) 現在モニタリング中の河川工作物についてのモニタリングに関する助言等

4 構成

中村 太士	北海道大学大学院教授
小宮山 英重	野生鮭研究所所長
妹尾 優二	流域生態研究所所長
丸谷 知己	北海道大学大学院教授
帰山 雅秀	北海道大学大学院教授

関係行政機関(斜里町、羅臼町)

事務局(環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道)

5 今年度のスケジュール

7月23日: 科学委員会にて河川工作物フォローアップ会議を提案

9月: 第1回会合(斜里町)

・平成20年度までのモニタリングの結果

森林管理局3基(赤イ川、ピリカベツ川)、北海道4基(ルシャ川、サシルイ川)、斜里町1基(赤イ川)

1月: 第2回会合(札幌市)

・平成21年度のモニタリングの結果

森林管理局3基(赤イ川、ピリカベツ川)、北海道5基(ルシャ川、サシルイ川、チエンベツ川)、斜里町1基(赤イ川)

6 開催頻度

年1回程度(サケの遡上が終了した後を想定)